



違憲立法の「戦争法」は認められない! 民主主義を取り戻す「不断の努力」を!!

●違憲の「戦争法」も、強引な採決も、認められない

9月19日未明に、戦争法案は「戦争法」になってしまいました。委員会では、議論が尽くされないまま、総括質疑さえ行わず、混乱と暴力、怒号のなか、速記録も作成できない状況で採決が強行されたのです。世論調査で6～7割に上る「今国会成立反対」の国民の声も、圧倒的多数の憲法学者、最高裁判所や内閣法制局の元長官らの「憲法違反」との指摘も全て無視したこの暴挙は、到底認められません。

強行採決のあと、鴻池委員長は「政府の答弁には不備が目立った。これからも謙虚に説明を尽くしてほしい」と言っていました。それを受けて、安倍首相も、「今後も国民に粘り強く説明を行っていく」と言いました。その後、随分と時間がたちましたが、公の場での丁寧な説明が、1度でもあったでしょうか。首相には、国民の批判に向き合う自信もなければ立場もないのです。

つて、本動議は賛成少数により否決されました。
鴻池委員長の復席を願います。
速記を止めてください。
〔速記中止〕
〔理事佐藤正久君退席、委員長着席〕
○委員長（鴻池祥肇君）……（発言する者多く、議場騒然、聴取不能）
〔委員長退席〕
午後四時三十六分

参議院記録部

●「裸の王様」に対して、声を上げよう!

自民党両院議員総会で、安倍晋三首相が総裁に再選されましたが、総裁選挙は行われませんでした。安倍首相に対する異論を押しつぶし、総裁選に立候補することすらできないのです。自由民主党という党名が恥ずかしくなるほど、自由も民主主義もないのです。公明党も同じです。支持母体である創価学会員の訴えにも、山口那津男代表は「ニセモノの学会員に騙されるな!」とあって、全く耳を傾けませんでした。

安倍政権は、アンデルセン童話の裸の王様と同じです。小選挙区制を盾に強大な権力を握った王様に対して、誰も逆らうことができないのです。権力に阿る、偏見に捉われる大人たちに対して「王様は裸だ」「王様は裸だぞ」とみんなで叫ぶことが、今の安倍政権にも必要です。だまって、政府に任せていては、何も変わりません。王様は裸だと、いんちきなものはいんちきなのだと、みんなで声を上げて、裸の王様に届けていくことが必要です。

●憲法19条～「国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」

憲法12条はいいます。「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。」

「戦争法」が成立したから、それで終わりということではありません。国民から逃げ続け、民意を軽視する議員さんに、私たちの想いを託すことはできません。来年の参議院議員選挙で、国民の

声に誠実に耳を傾ける、憲法や民主主義を守る議員をたくさん当選させれば、戦争法の運用を止めることができます。

釧路駅前の土曜行動も、厚岸の土曜行動も、まだまだ続きます。各地で戦争法反対の集会も企画されています。私たちの「不断の努力」によって、「子どもたちに平和な未来を！」の思いをより強く、さらに広げていきましょう。



大雨の中、9月19日(土)釧路駅前宣伝



9月20日(日)厚岸街頭宣伝

「戦争させない！」今後の取り組み

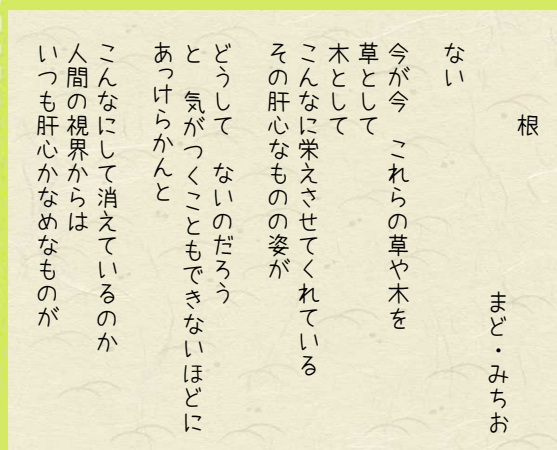
①戦争させない・9条壊すな！釧路行動NeverGiveUp集会

- ・日時：10月8日(木)18:30～
- ・場所：釧路市交流プラザさいわい208号室
- ・総掛かり行動の今後の活動についての提案、ご意見、思いなどについて交流します。

②さようなら原発・戦争北海道集会

- ・日時 2015年10月10日(土) オープニング12時30分/集会13時/デモ14時
- ・場所 大通公園西8丁目広場
- ・内容 呼びかけ人あいさつ、ゲストスピーチ(古賀茂明さん/元経産省官僚)、メッセージボードアピールなど
- ・主催 さようなら原発北海道実行委員会、戦争をさせない北海道委員会
- ・デモ 西8丁目⇒北大通を東進⇒駅前通を左折し北上⇒北4条通を左折⇒日本生命ビル前(自民党道連向かい側)で流れ解散

▼「根」(まど・みちお)～見えないところに大事なものがある！



この詩を子どもに授業する時には、「根」という題を隠して考えさせると読みが深まります。

一連で、いきなり「ない」と言い切ります。二連「その肝心なもの姿が」、三連「あっけらかんと」、四連「いつも肝心かなめなもの」は、すべて一連の「ない」に戻る倒置法の形をとっています。その倒置法の形をくり返すことで、「ない」を強調しています。

目に見えるものの「視界」の裏に、奥に、肝心なものがあるのです。「ない」ではなく、見え「ない」、見てい「ない」のです。見えないものを見る目が求められます。物事の本質、真実を見る目が求められます。

「民主主義」も、そうであるかも知れません。私を「私」として「人」として栄えさせてくれる肝心なものであるにもかかわらず、表面的な視野にはなかなか入ってきません

んでした。でも、「戦争法」によって多くの人の目から見えるようになった今、その「肝心なもの」を守るために、たくさんの方が行動しています。本質、真実を見る目を、もっと磨いていきたいと思ひます。